

2019（令和元）年度 第5期 事業報告書

2019（平成31）年4月1日から

2020（令和2）年3月31日まで

1. カトリック学校の課題と対応

司祭・修道者の高齢化や減少に伴い、カトリック学校としてのアイデンティティの維持・継承が大きな課題である。これらに対応するため、学校責任者の養成や教職員の研修がより重要性を増すと同時に、優秀な教職員人材の確保が必要となっている。また、少子化や私学間の競争、公立との競合など、経営面の課題も山積しており、学校法人の組織の在り方自体を検討することも求められる時機が到来していると考えられる。いずれも喫緊に取り組むべき課題であり、当連合会も一般財団法人発足5年目を迎え、事業の推進に注力した。

具体的には、「研修会特別委員会」において各研修会が充実したものとなるよう内容の検討を行うとともに、できることはすぐに実行に移すことを心がけている。この委員会を中心に、2019年度はカトリック教育啓発のためのDVD『ミッションを生きる ～カトリック教育に関わる全ての人へ～』を制作した。人材確保の支援では、学校一日体験の開催やサイトによる人材情報が役立っている。苦戦が続く地方の学校法人の中には、土地活用、教育内容や組織の変革で展望が開けるケースもあり、「学校法人特別委員会」による支援を行った。

2. 法人理事会、評議員会の開催

理事会・評議員会の開催は以下のとおり。

第17回理事会 2019年5月15日開催 於ニコラ・バレ修道院
(議案内容) 2018年度事業報告・決算、評議員会招集

第5回評議員会 2019年5月30日開催 於ニコラ・バレ修道院
(議案内容) 2018年度事業報告・決算

(臨時)評議員会 2019年5月30日開催 於ニコラ・バレ修道院
(議案内容) 役員(理事・監事)の選任

第18回理事会 2019年5月30日開催 於ニコラ・バレ修道院
(議案内容) 開戦後の代表理事・専務理事の選定

第19回理事会 2019年11月27日開催 (みなし理事会)
(議案内容) 中間業務執行状況報告、中間決算報告
学校法人特別委員会委員の選任、小中校連盟助成金制度
変更の報告

第20回理事会 2020年2月21日開催 於ニコラ・バレ修道院
(議案内容) 2020年度事業計画・予算の承認、評議員選定委員会の招
集、嘱託職員就業規則の改訂

第4回評議員選定委員会 2020年2月21日開催 於ニコラ・バレ修道院
(議案内容) 評議員の選任

3. 事業について

法人の事業は、傘下の各連盟（校種別に、「大学連盟」「短期大学連盟」「小中高連盟」「幼児教育連盟」）ごとの事業と、各連盟に共通する事業（「連合会共通事業」）、加盟校向けの発刊事業（「よき家庭」「ひかりの子等」）に区分し、取り組んだ。具体的な内容は、以下の通り。

【連合会共通事業】

1. 人材情報の確保と支援

- ホームページ上のカトリック学校人材情報制度を通して、加盟校の教職員採用を支援した。HP開設以来 10 年が経過し、制度の認知度が高まる中で幼稚園から高校まで広く利用されるようになった。2019 年度の求職登録数は 160 名、学校からの求人掲載数は 247 件であった。
- 教職志望者の理解を深める一助として、カトリック学校における「学校一日体験」を企画・運営した。10 年目を迎えた 2019 年度は、9 月 12 日、聖ドミニコ学園小学校、中学・高等学校（東京都）にて開催。参加者 24 名（+引率教員 4 名）にとって貴重な体験となった。

2. 学校法人特別委員会

- 2015 年度からの継続事業。加盟校がカトリック学校としての使命を果たすために、教育内容の充実、法人統合等について専門的見地から、集中的な検討や具体的な助言・支援を行っている。2019 年度は、関西・中部・関東地区の学校についての検討に加え、北海道地区の支援を継続した。これらの進捗については、6 月、9 月、12 月、の委員会で報告と検討が行われた。3 月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止したが、各担当の場で支援事業を推進している。

3. 研修会特別委員会

- 2016 年度からの継続事業。加盟校がカトリック学校としてその使命を果たすために必要な研修の企画・運営に携わった。当連合会が関わる研修会を通して、後継者の養成が着実になされるよう努めている。今年度はこの研修会を中心として、教職員向けに、カトリック教育の理解を深めるための DVD『ミッションを生きる ～カトリック教育に関わる全ての人へ～』を 2019 年 12 月に発行し、全小中高加盟校と学校法人に送付した。本年度は、5 月、7 月（2 回）、9 月、10 月、11 月、1 月に委員会を開催した。3 月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

4. カトリック学校法人リーダー研修会

- カトリック学校が抱える諸問題の中からテーマを設定し、将来のカトリック学校を担うリーダーを対象とした研修会を企画・運営。2019 年度は、10 月 17 日～18 日、ニコラ・バレ修道院にて、テーマを「リーダーシップと直面する諸課題 ～教皇フランシスコのリーダーシップに学ぶ～」をテーマに開催した。ホアン・アイダル師（上智大学教授・イエズス会士）と吉川まみ氏（上智大学准教授）には理念的な講演を、丸山恵一郎氏（上智学院顧問弁護士）には学校が抱える具体的諸問題について各グループを牽引しながらの助言を依頼した。コーディネーターは李聖一師（上智学院理事・イエズス会士）。参加者は 32 法人 66 名。

5. キリスト教学校教育懇談会

- プロテスタント校と協力して講演会を実施した。開催場所は東京と大阪の交互としており、今年度は大阪で開催した。プロテスタント側の担当で、実行委員会を設置して準備を進め、2019

年11月23日、大阪女学院にて講演会を開催した。テーマは「持続可能な世界を目指して～いまキリスト教学校ができること～」。木村護郎クリストフ氏(上智大学教授)、福嶋揚氏(青山学院大学講師)の講演に続き、不二聖心女子学院中学高等学校と桃山学院中学高等学校の事例報告を行った。参加者は87名。

6. 情報発信

- ホームページを活用しての情報発信に努めた。カトリック学校に関わる情報のみならず、キリスト教学校教育同盟からの掲載依頼にも応じている。

7. 日本カトリック学校教育委員会との連携

- カトリック学校教育の使命を果たすために、学校教育委員会と連携して事業を進めた。定例委員会には、理事長が委員として、事務局からもオブザーバー参加を行った。また、「集い」(2019年4月28日～29日に都市センターホールで開催)には、当連合会委員・事務局員が参加した。

8. みちのく未来基金

- 「みちのく未来基金」と連携し、カトリックのサポート大学・短期大学が震災で親を亡くした子どもたちを支援している。毎年1回、「みちのく未来基金」の事務局を訪問。今年度も3月に訪問し、情報交換を行った。

9. その他

- フランシスコ教皇訪日(2019年11月23日～26日)にあたり、東京ドームでのミサ運営にカトリック教会ならびに電通担当者と協力して関わった。5万人規模のミサに関東地区のカトリック学校より7,000人の児童生徒が参加。空港出迎え、ボランティア、オーケストラ、聖歌隊などをカトリック学校から募った。
- 名簿作成年度にあたり、幼児教育連盟「加盟園名簿」と、小中高連盟・短期大学連盟・大学連盟「加盟校名簿」の2分冊で12月に発行した。

10. 資産運用

- 「資金運用規程」及び「2019年度資産運用方針」に沿って、適正かつ効率的な運用を継続した。運用は安全確実を基本とし、カトリック教会の方向性に則し、人権・環境・平和を損なう企業などについて投資を行わないこと、新たな投資は1銘柄1,000万円以下とすることなどを運用方針とした。景気は弱含みで推移しており、特に年度末にかけての新型コロナウイルスの世界規模での感染拡大の影響は、これまでに経験したことのない状況にあるが、資産運用益は前年度をやや上回った。

11. 「賛助会員制度」

- 学生・生徒数減少による会費収入の漸減傾向に鑑み、2017年度より連合会事業に支援をしていただく「賛助会員制度」を設けた。様々な機会を通じて情宣し、今年度は34団体325万円、個人から6万円、寄付6件10万円のご支援をいただいた。

【大学連盟事業】

1. 連盟の運営

- 日本カトリック大学連盟の事業を企画し、実施に向けて、総会・幹事会にて内容を検討した。2019年6月14日～15日にかけて、2019年度総会が聖マリア学院大学とハイネスホテル久留米を会場として開催された。

2. 研究奨励・奨学金

- カトリック学術奨励金「研究奨励賞」選考規程、「研究助成金」選考規程、大学院奨学生選考規程、大学院留学生奨学生選考規程に基づき、研究奨励賞、研究助成金、大学院奨学生・留学生奨学生を選出した。2019年度は大学院奨学生2名、大学院留学生奨学生4名を選出。また学術奨励金「研究助成金」、「研究奨励賞」については該当案件がなかった。

3. 大学連盟・短期大学連盟合同職員研修会

- 短期大学連盟と合同で職員研修会を隔年で開催する。開催年にあたる2020年は、9月3-4日に仙台白百合女子大学を担当校として準備を始めた。

【短期大学連盟事業】

1. 連盟の運営

- 日本カトリック短期大学連盟の事業を企画し、総会にて内容を検討した。2019年5月16日ニコラ・バレ修道院にて定期総会を開催し、2018年度の事業報告・決算、2019年度の事業計画・予算を審議し承認した。
- 理事長・学長研修会については全学へのアンケート結果を踏まえて中止とするが、併せて「つどい」への参加を促したり、総会時に研修的要素を取り入れたりすることを心がける。
- 当連盟は規模が縮小しており、独自の研修会企画も難しい状況にある。これを受けて、もともと「大学・短期大学連盟」として発足した連盟であること、短期大学連盟の規模が他連盟に比して極端に小さくなってきていること、などから大学連盟との統合について検討を重ねた結果、大学連盟との統合に向けて検討することを総会において決議した。

2. 研究奨励

- カトリック学術研究奨励賞選考規程に基づき、研究奨励賞を決定した。総会に諮った結果、昨2018年度は該当者なしとなった。

3. 大学連盟・短期大学連盟合同職員研修会（大学連盟の項 参照）

【小中高連盟事業】

1. 連盟の運営

- 日本カトリック小中高連盟の事業の企画・実施に向けて、代表委員会にて内容を検討した。春の代表委員会は、「校長・教頭合同研修会」に先立ち、初日の午前中に行った（2019年6月20日、ANAクラウンプラザホテル）。2018年度の事業・決算報告、2019年度の事業・予算計画を審議し、承認した。また、本年度より光泉中学高等学校（滋賀県草津市）の加盟が承認された。秋の代表委員会は10月25日、ニコラ・バレ修道院にて、2018年度の事業・決算の中間報告、次年度各地区助成金額を承認した。

- 法人化以来の「共催事業」の仕組みが分かりづらく、各地区の会計担当校の負担が大きいという反省を踏まえ、本年度より、「助成事業」に転換することが承認された。

2. 校長・教頭合同研修会

- 九州地区担当のもと、2019年6月21日～22日、ANAクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルにて実施した。開催テーマは「カトリック学校のルーツを究める」とし、初日は宮田和夫氏(日本二十六聖人記念館マネージャー)、片岡瑠美子氏(長崎純心大学学長)による講演、2日目は外海地区への巡礼が行われ、長崎ならではの研修会となった。参加者109名。

3. キリスト教研究会

- 関東地区の教職員を対象に、年10回、土曜日の午後で開催している。本年度は教皇フランシスコ来日の年にあたり、「教皇文書を読む」というテーマを掲げた。竹内修一師(上智大学教授)、吉川まみ氏(上智大学准教授)、伊藤淳師(東京教区司祭)の3名の講師に、それぞれ『喜びに喜べ』、『ラウダート・シ』、『福音のよろこび』を解説して戴いた。参加者19名。

4. 事務職員研修会

- 「新任校長研修会」と交互に隔年で開催している。本年度は7月25日～26日、ニコラ・バレ修道院で開催。参加者31名。阿南孝也氏(洛星中学高等学校校長)、丸山恵一郎氏(上智学院顧問弁護士)による講演のほか、横山伸也氏(サレジオ学院事務長)による「働き方改革」に直面しての課題や対処に関する事例報告がなされた。

5. カトリック教育を学ぶ会

- 比較的若い世代の先生を対象とし(20代～30代)、2017年度から新たに始まった研修会。本年度は8月7日～8日、山中湖畔雪の聖母修道院にて開催された。参加者17名。コーディネーターである李聖一師(上智学院理事)を中心に、「カトリック学校とは何か」についての講話や、「意識の糾明」に基づく黙想などを体験した。カトリック学校の教員として、地域や校種を越えた繋がりも大切にしている。

6. 事業助成

- 各地区連盟が行う事業に対して助成を行う。事業助成にあたっては、各地区の実施計画に基づいて各地区への定められた助成金額(前年度の秋に決定)を7月に送金し、年度末までに収支報告書の提出を受けて適切に事業が行われているかを確認した。

【幼児教育連盟事業】

1. 連盟の運営

- 日本カトリック幼児教育連盟の事業の企画・実施に向けて、常任委員会及び代表委員会にて内容を検討した。常任委員会は、6月6日、11月21日、2月13日の3回、代表委員会は6月6日(常任委員会終了後)、ニコラ・バレ修道院にて開催された。6月の代表委員会で、2018年度の事業・決算報告、2019年度の事業・予算計画を審議し、承認した。また、「日本カトリック保育施設協会」との連携が進められ、常任司教委員会へも進捗状況を報告しながら、2021年度の統合を準備中。

2. 全国教職員研修大会

- 加盟園教職員を対象に隔年で開催されている。7月30日～31日、倉敷アイビースクエアを会場に、「カトリック園のミッション ～神さまがはたらく～」をテーマとし、参加者770名の研修となった。

3. 後継者養成研修会

- 将来のカトリック園を担っていく人材育成を目的として、2019年8月1日～3日、南山学園研修センター（名古屋）にて2泊3日の研修会を実施した。参加者41名。

4. 機関紙「かがやき」の発行

- カトリック園教職員向けに年2回(3号:6月、4号:12月 発行)とも好評を博している。

5. 研修会助成金

- 当連合会の目的達成に則する事業として、「キリスト教教育に関する研究会・講演会の開催」を企画・運営する団体に助成を行っている。2019年度は各地区カトリック幼児教育の団体に12件60万円を助成した。

6. eラーニングによる教員免許状更新講座の開設

- 幼稚園教諭に特化したオンライン講習講座を2019年12月に開講。キリスト教保育連盟、桜美林大学と連携・協力し進めている。2019年度受講者は61名。

【出版事業】

- 「よき家庭」:カトリック小中高に学ぶ児童・生徒の保護者を対象に、家庭と学校を繋ぐ目的で、年間3回(7月・12月・2月)、編集発行した。購読申込部数は約84,000部/各号、年間購読料約750万円)と前年度より漸増した。
- 「ひかりの子」:カトリック園に学ぶ園児の保護者を対象に、家庭とカトリック園を繋ぐ目的で、年間6回(4月・6月・9月・11月・1月・3月)、編集発行した。2019年度の購読申込部数は約57,000部/各号、年間購読料2,060万円と前年とほぼ同じ。
- 「かがやき」:カトリック園教職員向け情報誌を年2回、編集発行した。基本的なカトリックに関する知識なども扱う。発行部数約4,400部/各号。購読部数の増加を目指し情宣に努める。
- 「カトリック園へようこそ」:カトリック園の紹介パンフレット。今年度は13,600部送付。

以上